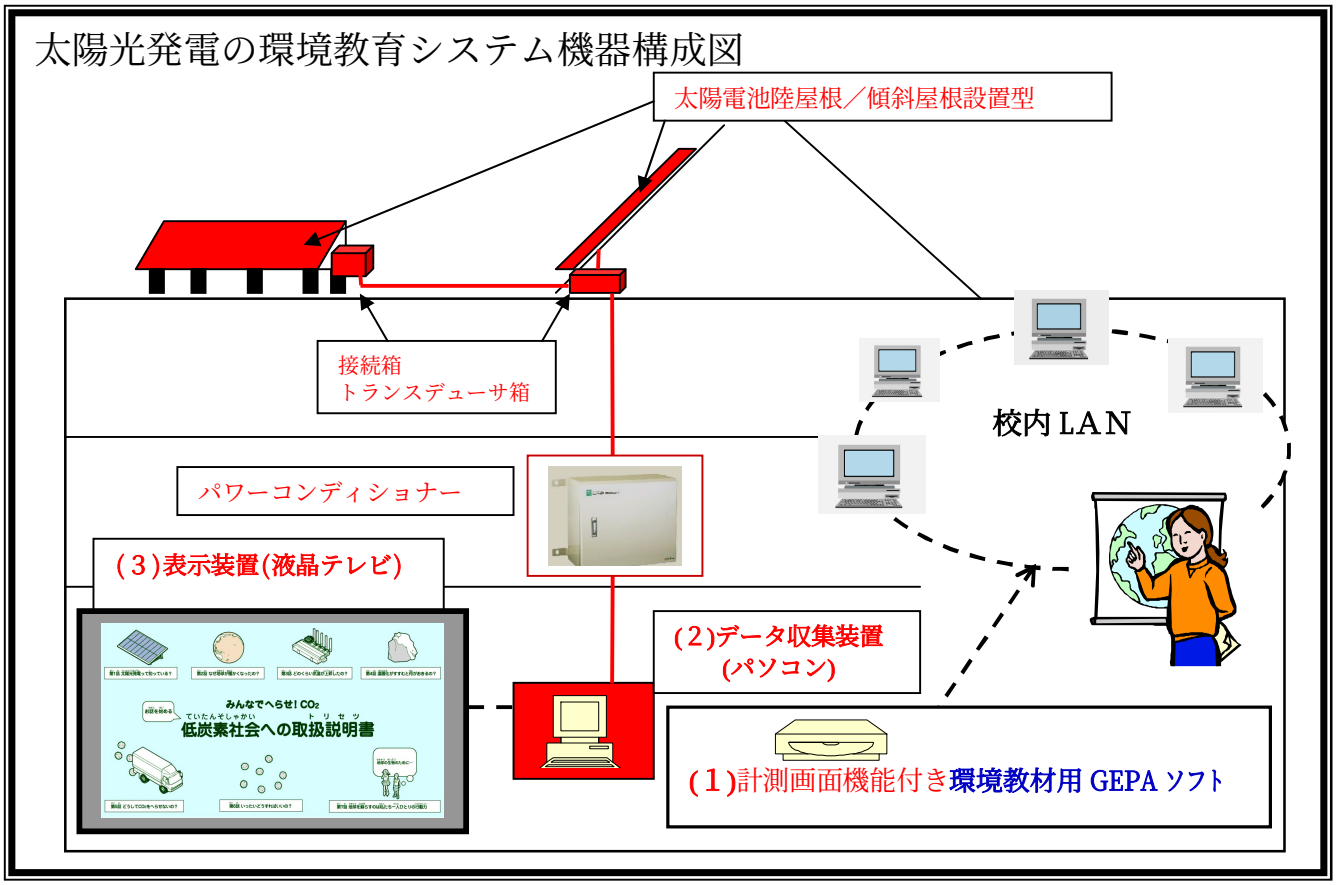
5．計測･表示の環境ソフトを教材として活用した環境教育の推進方法



エコスクール事業における太陽光発電計測システムを教材として活用した環境教育の推進

スクール・ニューディール構想における環境教育の活用に当たっては、次の(１)の相当品ソフトにより(２)のパソコン(データ収集装置)にインストールし、その起動内容を(３)の液晶テレビに反映しするとともに、校内LANが敷設されている施設では、(２)のパーソナルコンピュータを校内LANに接続し、校内LANに接続されたパソコン等を用いて、地球温暖化問題を一人一人が「自分自身の問題」として捉え、対策に向けて行動意欲を促すよう環境教育を行う。

環境教育の重要性が指摘された国連の2005年からの「持続可能な社会のための教育10年」の制定と実施

２００２年の「国連環境開発サミット」において、「持続可能な共通の未来」を開く為に、心を合わせて努力していく。その原動力は、何と言っても「教育」であるとのとの考えから、国連による「持続可能な開発のための教育の１０年」の制定と２００５年から実施され、日本では２００３年、「環境教育推進法」が施行されました。

このような経緯から環境教育の教材ソフトは、太陽光発電の必要性を理解し、地球温暖化による生態系や人間への影響を学び、その原因が私たちのライフスタイルにあること知り、CO_2排出削減への行動と意欲を促すために画像と音声で説明され、環境教育用の教材として活用出来るように制作されています。

(１)環境教育教材用GEPAソフトの内容

①トップ画面（1画面）太陽光発電量ブラフ（2画面）

データ計測ソフト機能により太陽光発電の発電量を基に森林換算、電力会社の CO_2係数を基に太陽光発電における CO_2削減量等の環境負荷低減価値を具体的なものに例えて解り易く表示する。

②環境教育教材用 GEPA ソフト【動画】(全７話)

タイトル「低炭素社会への取扱説明書」

第１話. 太陽光発電って、知っている？
第２話.なぜ地球が暖かくなったの？
第３話. どのくらい気温が上昇したの。
　＊今世紀末の気温上昇。(IPCCの内容説明)
第４話. 温暖化が進むと、何が起きるの。
　＊IPCC第４次、第２作業部会報告書の抜粋
　＊北極海氷･山岳氷河の融解、異常気象の増大、生態系への影響、人間の健康への影響等。
第５話. どうして、CO_2を減らせないの。
　＊現代人の生活様式との係わりを考える
第６話. いったいどうすれば良いの。
　＊IPCC第４次報告書の内容を抜粋
　･短中期的抑制策(～2030)と長期的抑制策
第７話. 地球を蘇えらすのは、私たち一人一人の行動力。
　＊自己と環境の関係について
　＊気象庁の二酸化炭素(CO_2)分布情報
　＊環境家計簿の活用方法

上記内容を３０分程度で、動画と会話方式によって解りやすく説明されている教育教材用 GEPA ソフト相当品。